

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 21 日現在

機関番号：34441

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24593205

研究課題名(和文) 日尼比の看護学生および看護師の職業的アイデンティティ構築に関する国際比較研究

研究課題名(英文) Comparison of professional identity among nurses and nursing students in the Philippines, Indonesia and Japan.

研究代表者

高橋 美和 (TAKAHASHI, MIWA)

藍野大学・医療保健学部・教授

研究者番号：40322903

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,100,000円

研究成果の概要(和文)：日本は、フィリピン、インドネシアと経済連携協定(EPA)に合意した。この合意に基づき、外国人看護師の受け入れが開始された。そこで、日本人とフィリピン人、インドネシア人看護師および看護学生の職業的アイデンティティの確立過程に差異があるかを比較した。その結果、日本人とフィリピン人の職業的アイデンティティ比較では、日本人は看護師および看護学生共にフィリピン人よりも有意に低かった。現在、インドネシア人のデータを分析中である。

研究成果の概要(英文)：Japan has started to accept Filipino and Indonesian nurses under the Economic Partnership Agreement (EPA). The purpose of this study was to compare the nursing professional identity and its construction process among Japanese, Filipino, Indonesian nurses and nursing students. We found that the Filipino scale score of nursing professional identity was significantly higher than the Japanese one. We are currently analyzing the Indonesian data.

研究分野：医歯薬学・看護学・看護教育学

キーワード：職業的アイデンティティ インドネシア フィリピン 国際比較

1. 研究開始当初の背景

米国を始めとする英国、EU 諸国など多くの先進国が少子高齢化に伴い看護師など医療従事者不足に直面している。そのため、外国人労働者の受け入れによって自国の労働力を補っている先進国も多い。日本においても、社会の高齢化に伴い今後一層、必要となる看護・介護分野で 2006 年 9 月日本とフィリピン間、2007 年 8 月日本とインドネシア間で経済連携協定 (EPA) が合意され外国人労働者の受け入れが開始された。この合意を受け、今後、外国人看護師を同僚として一緒に働く可能性がある。しかし、今後、外国人看護師を同僚として働く職場環境の変化があっても、看護、医療の質を低下させることなく、維持・向上させることが重要である。

近年、教育学を中心に、専門家同士が互いに成長し合える関係性を「同僚性」と呼び、このような性質をもった共同体を職場内外で育むことの重要性が提唱されている。奥野らは、このような示唆は、看護職においても適応され、看護実践を他者と共に学び、探求し、看護師として互いに成長し合っているという連帯感を抱くことができる「共同体」の構築は、看護師の職業継続、専門家としての職業的アイデンティティ形成のためにも重要な課題であると述べている。同僚と職業上抱えている悩みや問題を語り合うこと、関係性を深めること、親和感、信頼感の構築、他者との関係性の変容は、成長している自己、学びの実感などの肯定的な情動は、職業的アイデンティティの形成に繋がる。逆に、様々な背景をもつ異質な者同士の相互作用として働く葛藤、対立、不協和など相容れない情動は職業的アイデンティティの低下を招く。さらに、看護師の職業的アイデンティティに関する研究として、職場環境、同僚、チームの団結力などと関連があり、職業的アイデンティティを高めることは、バーンアウト、離職を予防し、ストレス耐性、自己効力感などを高める事は既に明らかになっている。従って、今後、日本に就労する外国人看護師を同僚として一緒に働く際も職業的アイデンティティを低下させることなく、維持、向上させ、外国人看護師と同僚性を形成し、共同体を構築していかなければならないと言える。

また、本来、看護師は、専門職業人として自己の職業にアイデンティティをもち、職業を続けていく中で深め発達させていくと考えられている。また、職業的アイデンティティは、看護教育を受けている学生の時から育ちはじめ、卒業して職業を得ながら、確立していくと報告されているため、日本人看護学生と外国人看護学生の職業的アイデンティティの発達、確立過程の比較も必要かつ重要であると言える。

2. 研究の目的

(1)日本人とフィリピン人、インドネシア人看

護学生の職業的アイデンティティの検証

看護師としての職業的アイデンティティは、看護教育を受けている学生の時から育ち始めることから、日本人とフィリピン人、インドネシア人看護学生の職業的アイデンティティを調査し、アイデンティティの発達、確立過程に違いがあるのかを明らかにする。(2)日本人とフィリピン人、インドネシア人看護師の職業的アイデンティティの検証

将来、日本人看護師とフィリピン人、インドネシア人看護師が同僚として一緒に働いていく上で、職業的アイデンティティの差異、低下による様々な弊害を避けるため、看護師としての職業的アイデンティティを同じ程度確立していく必要があると考える。そのため、日本人とフィリピン人、インドネシア人看護師の職業的アイデンティティ発達、確立に差異があるか調査し、比較する。

(3)日本人とフィリピン人、インドネシア人看護学生および看護師の職業的アイデンティティの発達、確立の影響、関連因子の検証

日本人とフィリピン人、インドネシア人看護学生および看護師の職業的アイデンティティと基本的属性(性別、学年、入学目的等)を比較、分析し職業的アイデンティティ確立の影響、関連因子を検証する。

3. 研究の方法

(1)予備調査

看護師および看護学生の職業アイデンティティ尺度に関する文献検討に基づき質問紙を作成した。その後、日本とフィリピン、インドネシアの看護師および看護学生に予備調査を実施した。

(2)本調査

データ収集

予備調査を経て選定した質問項目から看護師用および看護学生用の職業アイデンティティの質問紙を作成し、日本とフィリピン、インドネシアにおいて本調査を実施した。

分析

統計ソフト PASW Statistics18.0 を用いて次の分析を行った。Cronbach's α 信頼性係数(以下、 α 係数)による内的整合性の確認、職業的アイデンティティを国別に Mann-Whitney の U 検定、学年別に Kruskal Wallis 検定で分析した。また、職業的アイデンティティと自尊感情の項目との関連を Spearman 順位相関係数の検定にて分析した。

倫理的配慮

研究者および対象者の所属施設の倫理委員会に申請、承認を得た。対象者には研究参加への自己決定、プライバシーの権利等について口頭と文書で説明し、研究協力の同意を得た。また、無記名、個別投函により質問紙を回収し匿名性と任意の参加を保障した。

4. 研究成果

(1)看護学生の職業的アイデンティティの比較

国別の職業的アイデンティティの総計は、日本人看護学生 61.9±6.3、フィリピン人看護学生 73.4±6.2、自尊感情の総計は、日本人看護学生 30.2±2.7、フィリピン人看護学生 31.9±3.1であった。職業的アイデンティティ、自尊感情の総計は共にフィリピン人看護学生が日本人看護学生より有意に高かった ($p<0.001$)。学年別の職業的アイデンティティの総計は、日本の看護学生は1年次、フィリピン人看護学生は2年次が最も高く、2国共4年次が最も低かった。インドネシア人看護学生のデータは、現在分析中であり、分析後、日本とインドネシア、フィリピンの3国間の比較検討をする。

職業的アイデンティティの項目のうち、日本人看護学生がフィリピン人看護学生より有意に高かった項目は2項目、フィリピン人看護学生が日本人看護学生より有意に高かった項目は15項目、2国間に有意差が無かった項目は3項目であった。

(2) 看護師の職業的アイデンティティの比較

国別の職業的アイデンティティの総計は、日本人看護師 61.9±6.3、フィリピン人看護師 73.4±6.2、自尊感情の総計は、日本人看護師 30.2±2.7、フィリピン人看護師 31.9±3.1であった。職業的アイデンティティ、自尊感情の総計は共にフィリピン人看護師が日本人看護師より有意に高かった ($p<0.001$)。しかし、男性看護師の自尊感情は2国間で有意差は無かった ($p=0.183$)。職業的アイデンティティの項目のうち、日本人看護師がフィリピン人看護師より有意に高かった項目は3項目、フィリピン人看護師が日本人看護師より有意に高かった項目は15項目、2国間に有意差が無かった項目は2項目であった。自尊感情の総計と職業的アイデンティティの項目は日本人看護師が1項目のみ、フィリピン人看護師は8項目と相関があった。

(3) 看護学生の職業的アイデンティティの発達、確立過程に関連する要因

日本人看護学生の職業的アイデンティティの総計は、入学目的 ($p<0.001$)、学年 ($p=0.002$)と有意差があり、性別 ($p=0.222$)、医療従事者 ($p=0.242$)と介護・看護経験 ($p=0.586$)の有無と有意差はなかった。

職業的アイデンティティの項目別では、性別では女性が男性より「私は、生涯、看護師として長く働き続けたい」($p=0.004$)、「私は看護の仕事を選んだことに満足している」($p=0.032$)の2項目が有意に高かった。学年別では、11項目で学年間に有意差があった。入学目的別では、「私は、看護関係者による社会的な事件が起こると、とても気になる」($p=0.253$)以外の19項目、医療従事者の有無別では「看護の仕事は、私に適していると思う」($p=0.025$)と「看護の仕事を通じて人間としての成長ができると思う」($p=0.004$)の2項目、介護・看護経験の有無別では「看護の仕事は、私に適していると思う」($p=0.012$)の1項目と有意差があった。

フィリピン人看護学生の職業的アイデンティティの総計は、性別 ($p=0.015$)、学年、入学目的 ($p<0.001$)と有意差があり、家族内の医療従事者 ($p=0.171$)と介護・看護経験 ($p=0.124$)の有無と有意差はなかった。

職業的アイデンティティの項目別では、性別では女性が男性より「生涯、看護師として長く働き続けたい」($p=0.001$)、「多少、給料が少なくても看護の仕事は良い仕事だと思う」($p=0.001$)、「看護に生き甲斐を感じている」($p=0.003$)の3項目と1%水準、他3項目と5%水準で有意差があった。学年別では14項目、入学目的別では16項目と有意差があった。介護経験の有無別では「生涯、看護師として長く働き続けたい」($p=0.049$)、「看護学生として誇りを持っている」($p=0.015$)の2項目と有意差があった。家族内の医療従事者の有無別では有意差が無かった。

インドネシア人看護学生のデータは、現在分析中であり、分析後、日本とフィリピン、インドネシアの3国間の比較検討をする。

(4) 看護師の職業的アイデンティティの発達、確立過程に関連する要因

日本人看護師の職業的アイデンティティの総計は、年代、看護師経験年数、給料および職業満足度と有意差があり、40代、看護師経験年数30年以上が最も高かった。しかし、病院、性別と有意差が無かった。

職業的アイデンティティ項目は、病院と14項目、年代と19項目、看護師経験年数および給料満足度と15項目、職業満足度と20項目と有意差があった。

看護師経験年数別の職業的アイデンティティの総計は、新人と30年以上を除く職業満足度と有意差があったが、病院、給料満足度と有意差が無かった。

看護師経験年数別の職業的アイデンティティ項目は、属性別で有意差がある項目に差異が見られた。

外国人看護師の職業的アイデンティティの発達、確立過程に関連する要因、相関関係については、現在、データを分析中である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 3 件)

高橋美和、看護師の職業的アイデンティティの確立過程と関連要因、第44回日本看護学会論文集(看護教育)、査読有、2014、202-205。

高橋美和、看護師の外国人看護師受け入れに関する研究 - 受容度と職業的アイデンティティの関連 -、第44回日本看護学会論文集(看護総合)、査読有、2014、7-10。

高橋美和、看護師の外国人看護師受け入れに関する意識調査、第44回日本看護学会論文集(看護総合)、査読有、2014、259-262。

〔学会発表〕(計 19 件)

高橋美和、日本と日本以外への海外就労希望があるフィリピン人看護学生の比較、第 34 回日本看護科学学会学術集会、2014 年 11 月 29・30 日(名古屋)

高橋美和、フィリピン人看護師の就労に関する研究、第 34 回日本看護科学学会学術集会、2014 年 11 月 29・30 日(名古屋)

高橋美和、日本人およびフィリピン人看護学生の経済連携協定(EPA)に関する研究 - EPA の認知度、受容度と関連する要因 - 第 45 回日本看護学会学術集会(看護管理)、2014 年 9 月 25・26 日(宮崎)

高橋美和、日本人およびフィリピン人看護学生の経済連携協定(EPA)に関する研究 - EPA の受容度と職業的アイデンティティ、自尊感情との関連 - 第 45 回日本看護学会学術集会(看護管理)、2014 年 9 月 25・26 日(宮崎)

高橋美和、看護学生の海外就労への関心に関連する要因、第 45 回日本看護学会学術集会(看護教育)、2014 年 9 月 17・18 日(新潟)

高橋美和、看護師の外国人看護師受け入れに関する研究、第 18 回日本看護管理学会学術集会、2014 年 8 月 29・30 日(愛媛)

高橋美和、日本への就労意欲があるフィリピン人看護師に関する研究、第 18 回日本看護管理学会学術集会、2014 年 8 月 29・30 日(愛媛)

高橋美和、フィリピン人看護学生の経済連携協定の認知度、受容度とその関連要因、第 40 回日本看護研究学会学術集会、2014 年 8 月 23・24 日(奈良)

高橋美和、看護師の外国人看護師受け入れに関連する要因分析、第 33 回日本看護科学学会学術集会、2013 年 12 月 6・7 日(大阪)

高橋美和、看護学生の外国人看護師受け入れに関連する要因分析第 33 回日本看護科学学会学術集会、2013 年 12 月 6・7 日(大阪)

高橋美和、フィリピン人看護師の日本への就労の関心に関連する要因、第 28 回日本国際保健医療学会学術集会、2013 年 11 月 2 - 4 日(名護)

高橋美和、フィリピン人看護師の海外就労への関心に関連する要因、第 28 回日本国際保健医療学会学術集会、2013 年 11 月 2 - 4 日(名護)

高橋美和、看護学生の職業的アイデンティティの発達過程と関連要因、第 44 回日本看護学会学術集会(看護教育)、2013 年 10 月 9・10 日(大宮)

高橋美和、看護師の職業的アイデンティティの確立過程と関連要因、第 44 回日本看護学会学術集会(看護教育)、2013 年 10 月 9・10 日(大宮)

高橋美和、看護師の外国人看護師受け入れに対する意識調査、第 44 回日本看護学会学術集会(看護総合)、2013 年 9 月 13・14 日(大分)

高橋美和、看護師の外国人看護師受け入れに関する研究 - 受容度と職業的アイデンティティの関連 -、第 44 回日本看護学会学術集会(看護総合)、2013 年 9 月 13・14 日(大分)

高橋美和、看護学生の海外就労への関心に関連する要因、第 23 回日本看護教育学会学術集会、2013 年 8 月 7・8 日(仙台)

高橋美和、看護師の職業的アイデンティティの確立過程と関連要因に関する研究、第 32 回日本看護科学学会学術集会、2012 年 11 月 30 日、12 月 1 日(東京)

高橋美和、日本人とフィリピン人看護師の職業的アイデンティティの比較、第 38 回日本看護研究学会学術集会、2012 年 7 月 7・8 日(那覇)

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕
出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

高橋 美和 (TAKAHASHI MIWA)
藍野大学・医療保健学部・看護学科・教授
研究者番号：40322903

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：